

司法試験対策委員会・特別講演会

「統治機構の全体構造」をどう見るか

法学部司法試験対策委員会主催の特別講演会が7月15日、神田キャンパスで開催され、約180人が聴講した。

「統治機構の全体構造をどう見るか」をテーマに、東京大学法学部教授で、元司法試験委員の高橋和之氏が講演。議会制民主主義論の定義や日本の議院内閣制の変遷を解説し、現在の議会制民主主義の問題点を述べ、国民の選択を政治に反映させる形式として、自らが提唱する『国民内閣制』の政治プロセスを説明した。司会の内藤光博法学部教授は「今回の講演を憲法を学ぶ上でのきっかけの一つとしてほしい」と話した。



多くの学生が熱心に聴講（右上は高橋教授）

地方自治体との提携講座 佐渡で開催

「佐渡学構築のために」—矢野文学部教授が語る

7月15日、新潟県佐渡島開発総合センターで「佐渡学構築のために～古代の人々は佐渡の嶋をどうみていたか～」をテーマに矢野建一文学部教授が講演した。

平成16年3月1日、一島一市として新たな誕生を見た佐渡。日本海に浮かぶ島国という特殊な条件により、ユーラシア大陸からの文化の受容口として、また海外交渉の窓口としての役割を負い、さまざまな産業や文化を育んできた。矢野教授は、地域の産業や文化を見直しながら、「佐渡とは何か」を神話や古代の伝承にまでさかのぼって検証した(出席者93人)。



満員の聴衆を前に講演する矢野文学部教授

校友会からのお知らせ

広島支部総会

▽日時=8月19日(金)18時30分~▽場所=広島市中区「広島全日空ホテル」▽会費=1万円(育友会員は5000円、学生無料)

珊瑚((35年卒)会総会

▽日時=9月17日(土)(12時30分~▽場所=神田15階ホール▽会費=1万円

北海道連合校友会総会

▽日時=9月17日(土)17時~▽場所=釧路市「釧路全日空ホテル」

広島支部総会

▽日時=8月19日(金)18時30分~▽場所=広島市中区「広島全日空ホテル」▽会費=1万円(育友会員は5000円、学生無料)

〈珊瑚(35)会総会〉

▽日時=9月17日(土)12時30分~▽場所=神田15階ホール▽会費=1万円

北海道連合校友会総会

▽日時=9月17日(土)17時~▽場所=釧路市「釧路全日空ホテル」

「みそめ会」がベトナム旅行

33会(昭和33年卒業同期会)有志とその家族で組織する「みそめ会」(小山幸次会長・商)が、5月13日から17日まで、20回目の懇親会としてベトナムへの海外旅行を行った=写真。

会の名付け親である榎本良吉石巻専修大学名誉教授(元専修大学教授)も参加し、総勢16人でショッピングやベトナム料理などを満喫した。



校友の本 紹介

詩集 症候群
倉知和明 著

筆者が満州事変、日中戦争から太平洋戦争まで、災禍の中で体験した本当の地獄。原爆、空襲で、罪もない何万、何十万人の一般市民が犠牲となり、皇国のため、祖国のため、少年までが遠い異国で屍となり、骨となった悲しさ。妻を子を、人を愛し祖国を愛するということは何か？ 人間の愚かさ、戦争の残虐さを『詩』という視点で訴えた慟哭の書である。(土曜美術社出版販売、本体2000円＋税)

著者(くらち・かずあき)＝昭31年商経。



第6回校友会 全国支部 東北ゴルフ大会

甘竹会長(昭33商経)が優勝

校友会の各地域支部の交流と活性化を図り、巡回で開催されている校友会全国支部東北ゴルフ大会が7月22日、岩手県の南部富士カントリークラブで43人の校友が参加して開催された＝写真。

伊藤良雄実行委員長(校友会副会長)、佐藤弘吉岩手市岩手町議会議員(昭41商)のあいさつに続き、蒲田重勝競技委員長(校友会体育振興部長)が競技説明。記念撮影後、スタートした。



大会終了後に懇親会を開催。甘竹秀雄校友会長と三島英雄専修大学専務理事のあいさつ、白根修専修大学常務理事の音頭で乾杯。成績発表と表彰式が行われ、甘竹会長が優勝、およびベストグロス賞を手にした。ブービー賞は勝見信哉氏(昭53法)だった。

第7回全国支部ゴルフ大会は、愛媛県伊予市(伊予おとり会 平山義昭会長＝昭39経済)で開催される予定。

《専大校友を訪ねて》

HIV／エイズ感染・防止に挑む

—ボツワナで1年間のNGO活動から帰国 小口隼人(おぐちはやと)さん(平15文)

世界で4千万人が感染し、年間300万人が命を落とすHIV／エイズ。とりわけ深刻なのが、サハラ以南アフリカの諸国だ。人口の37・4%がエイズに感染しているボツワナで1年間、エイズ感染・拡大防止プロジェクトで活動してきた。

専大文学部の人文学科社会学コースに学んだ。災害でのコミュニティがテーマの太矢根淳ゼミでは人道支援に興味を持った。「ごく普通の大学生」の世界観を変えたのが、米国サスケハナ大学への長期留学だ。富める米国はあこがれだったが、白人層と、差別される黒人層という「構図」を見せつけられることがしばしばで「自分の中に、とても受け入れられないと思いました」。マイノリティ層やさまざまな国からきた留学生と知り合い、発展途上国の貧困と支援に目を向けるようになった。

卒業後、デンマークのNGO「Humana People to People」プロジェクトに参加。ボツワナを中心にその周辺諸国を訪れた。職場や学校、村の一軒一軒を訪ね、エイズの意識を高めるキャンペーン活動を続けた。

世界有数のダイヤモンド産出国であるボツワナは、社会福祉が確立される一方、貧富の格差は広がり、農村部から都市部へ出稼ぎする労働形態が進んだ。エイズは全土に拡大、有効な治療法も追いつかない状況だ。

街では死体を運ぶ車が行き交う。「エイズが日常化しているのに、その怖さへの意識が低い。特に若い層の感染者が多く、教師などのインテリ層にも広まっている。このままでは国が減びてしまうかもしれません」。

行き場のない現実に立ちすくむ毎日だったボツワナでの体験を糧に今秋、英国にわたる。ロンドン大学大学院で公衆衛生学を専門に学ぶためだ。社会構造を視野に置き「エイズ感染防止に有効なプログラムの構築を」と意欲を燃やす。「一生をかけられる仕事です」。とことん打ち込むために、迷いはない。

